

株式会社 千趣会 (東証1部 : 8165)  
2017年度 決算説明会

ウーマン スマイル カンパニー

senshukai

2018年2月8日

- 1 2017年度連結業績について
- 2 セグメント別概況について
- 3 2018年度連結業績予想について
- 4 その他

# 1 2017年度連結業績について

# 2017年度連結決算損益 (対前年度比)

(単位：百万円)

	2016年度		2017年度		対前年	
		売上比		売上比	増減額	売上比 差異
売上高	<b>129,074</b>		<b>125,999</b>		<b>△3,075</b>	
売上原価	<b>67,087</b>	<b>52.0%</b>	<b>71,437</b>	<b>56.7%</b>	<b>4,350</b>	<b>4.7%</b>
売上総利益	<b>61,986</b>	<b>48.0%</b>	<b>54,561</b>	<b>43.3%</b>	<b>△7,425</b>	<b>△4.7%</b>
販管費	<b>60,791</b>	<b>47.1%</b>	<b>58,848</b>	<b>46.7%</b>	<b>△1,943</b>	<b>△0.4%</b>
営業利益	<b>1,194</b>	<b>0.9%</b>	<b>△4,287</b>	<b>△3.4%</b>	<b>△5,481</b>	<b>△4.3%</b>
経常利益	<b>1,673</b>	<b>1.3%</b>	<b>△4,206</b>	<b>△3.3%</b>	<b>△5,879</b>	<b>△4.6%</b>
親会社株主に帰属する 当期純利益	<b>1,420</b>	<b>1.1%</b>	<b>△11,090</b>	<b>△8.8%</b>	<b>△12,510</b>	<b>△9.9%</b>

- ◆ 売上高：ブライダル事業・法人事業・その他において増収だったが、通信販売事業の減収による売上高減(△2.4%)
- ◆ 営業利益：売上高減少及び原価率悪化により、営業損失が発生

# 2017年度連結貸借対照表(対前年度比)

(単位：百万円)

	2016年度末	2017年度末	増減額
<b>資産の部</b>			
● 流動資産	52,618	48,854	△3,763
● 固定資産	49,341	41,586	△7,755
資産合計	101,959	90,441	△11,518
<b>負債の部</b>			
● 流動負債	29,298	30,066	767
● 固定負債	20,088	18,826	△1,262
負債合計	49,387	48,892	△494
<b>純資産の部</b>			
● 株主資本	58,399	41,155	△17,243
● その他の包括利益累計額	△5,890	318	6,209
● 非支配株主持分	64	74	10
純資産合計	52,572	41,548	△11,024
負債・純資産合計	101,959	90,441	△11,518

- ◆ 減損損失の計上等により、有形固定資産4,535百万円、無形固定資産1,439百万円減少
- ◆ 親会社株主に帰属する当期純損失11,090百万円の計上により、利益剰余金が減少

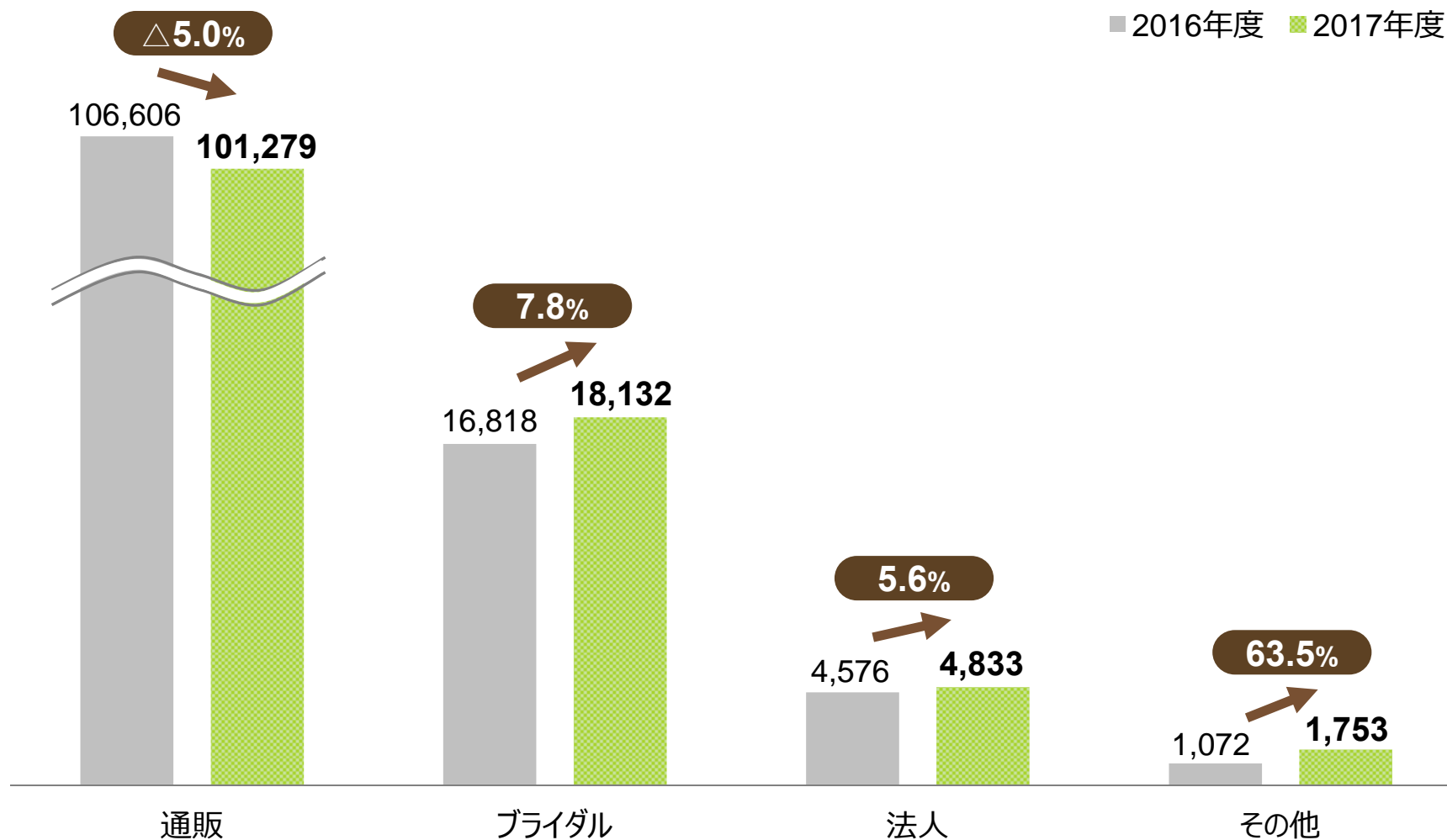
# 2017年度連結キャッシュ・フロー計算書 (対前年度比)

(単位：百万円)

	2016年度	2017年度	増減額	
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,825	1,952	△1,873	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 税金等調整前当期純損失 (△10,899)</li> <li>■ 減損損失 (+5,473)</li> <li>■ 減価償却費 (+2,196)</li> <li>■ たな卸資産の減少額 (+4,454)</li> </ul>
投資活動によるキャッシュ・フロー	94	△397	△491	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 有形固定資産の取得による支出 (△1,165)</li> <li>■ 子会社株式の取得による支出 (△835)</li> <li>■ 投資有価証券の売却による収入 (+1,754)</li> </ul>
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,580	△1,148	431	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 長期借入れによる収入 (+2,800)</li> <li>■ 長期借入金の返済による支出 (△1,656)</li> <li>■ 新株予約権付社債の償還による支出 (△2,000)</li> </ul>
現金及び現金同等物の期末残高	16,600	17,323	723	

# 2017年度連結セグメント別売上高 (対前年度比)

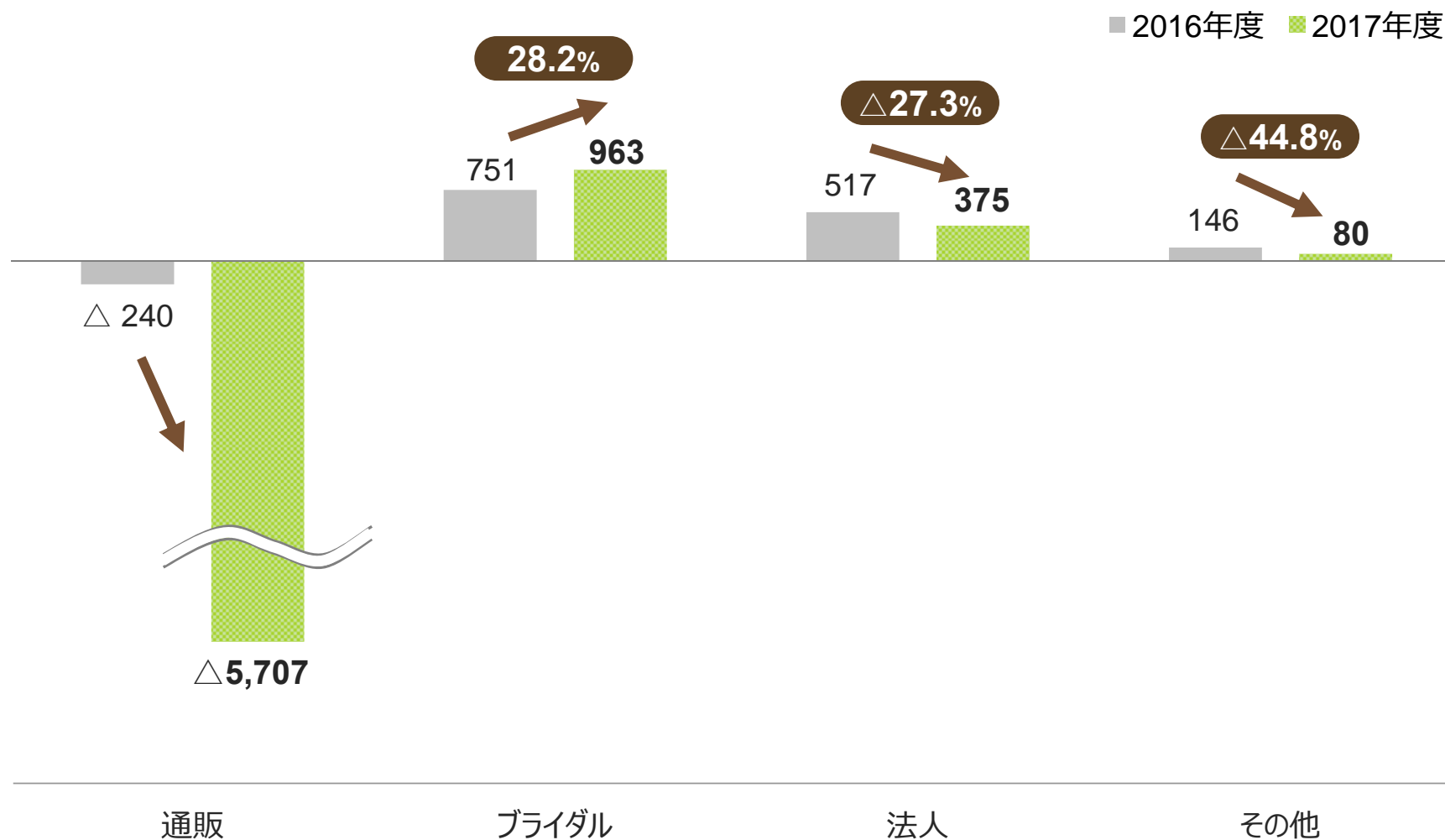
(単位：百万円)



※ その他：保険・クレジットを主とするサービス事業及び保育事業他

# 2017年度連結セグメント別営業利益 (対前年度比)

(単位：百万円)



※ その他：保険・クレジットを主とするサービス事業及び保育事業他



## 2 セグメント別概況について

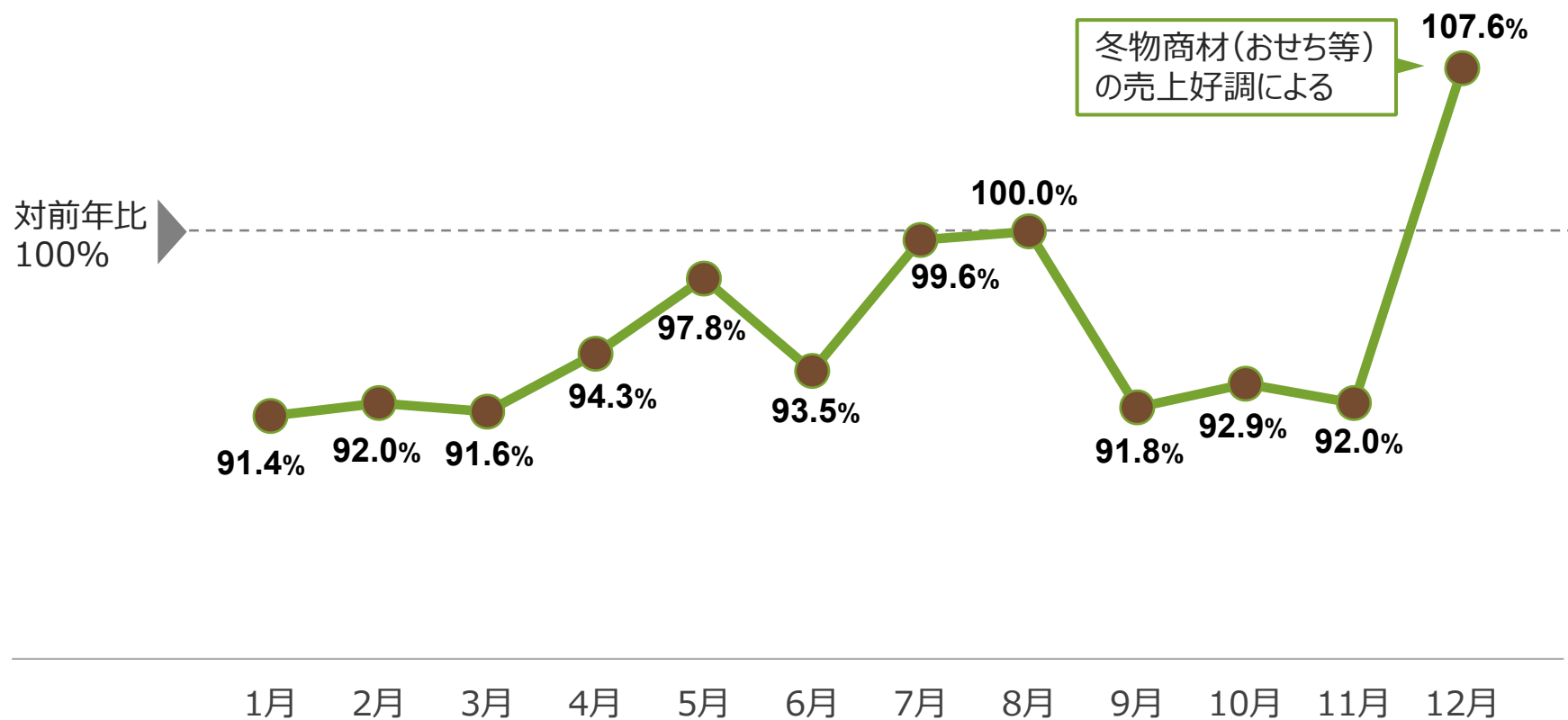
# 通販事業の概況 (対前年度比)

	2016年度	2017年度	増減	要因
売上高 (百万円)	106,606	101,279	△5,327	
営業利益 (百万円)	△240	△5,707	△5,467	
年間購入者数 (万人)	337.9	323.7	△14.2	
新規購入者数 (万人)	74.5	75.2	0.7	
1件当たり受注単価 (円)	10,575	9,718	△857	■ 1点当たり単価の低下による
1人当たり注文回数 (回)	2.75	2.74	△0.01	■ 頻度の高い既存会員の減少による
カタログ部数 (万部)	7,580	4,740	△2,840	■ 休刊や統合に伴うカタログ種類の減少による
ネット受注件数比率	80.2%	83.5%	3.3%	
スマートフォン売上シェア ～ネット売上の内	47.6%	54.7%	7.1%	

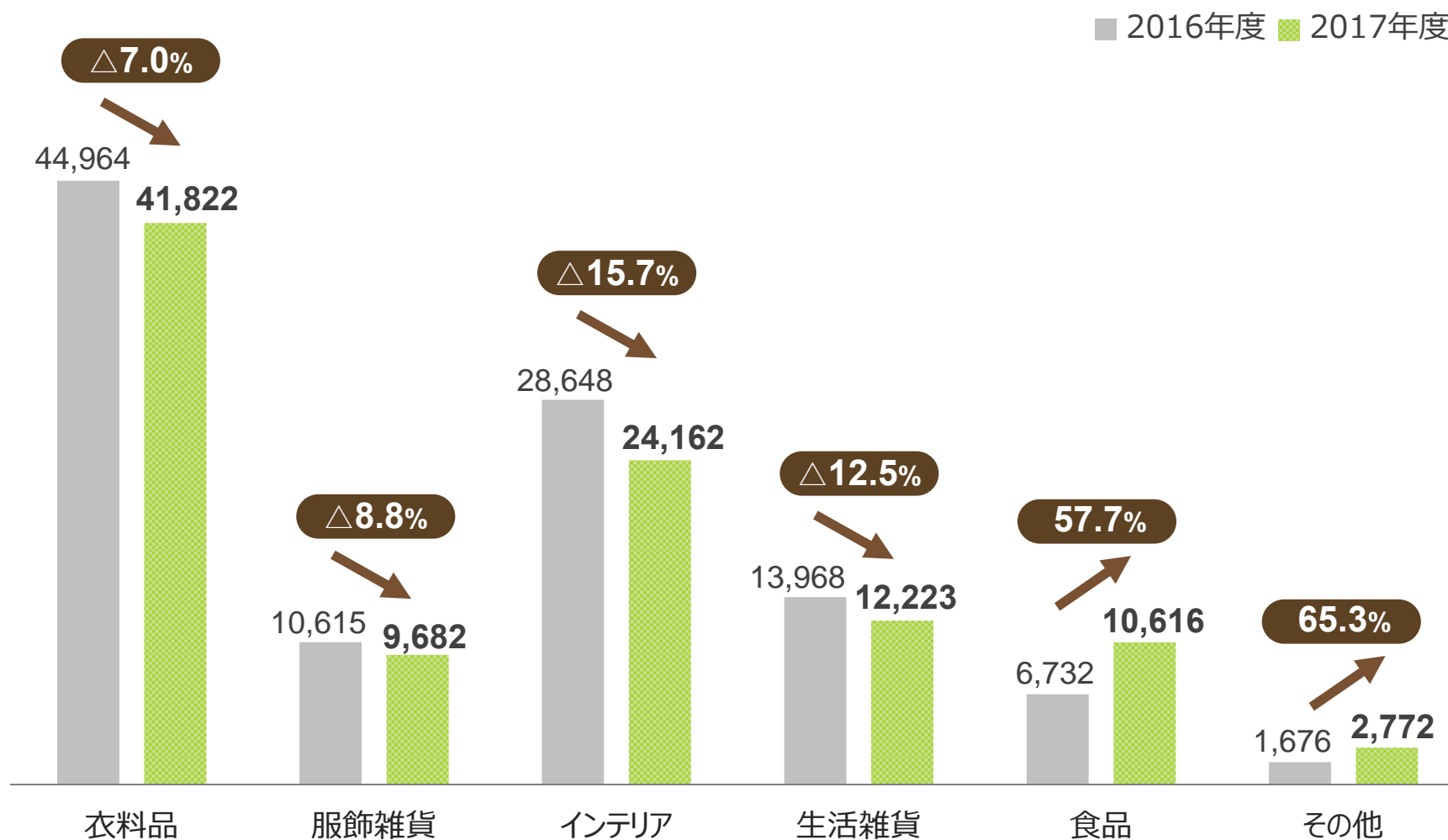
※ 年間購入者数以下の数値は通販事業の中の単体(頒布会事業を除いた)数値

# 通販事業 月次売上高の推移 (対前年同月比)

1~12月 累計 95.0%

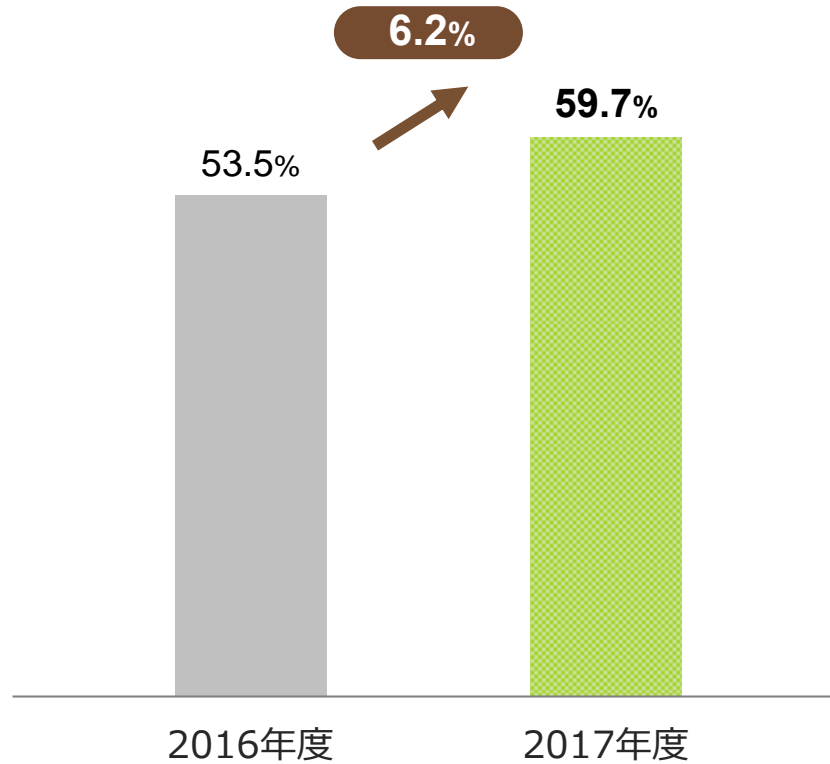


(単位：百万円)



※ その他：イイハナでの花卉とカタログギフトの売上等

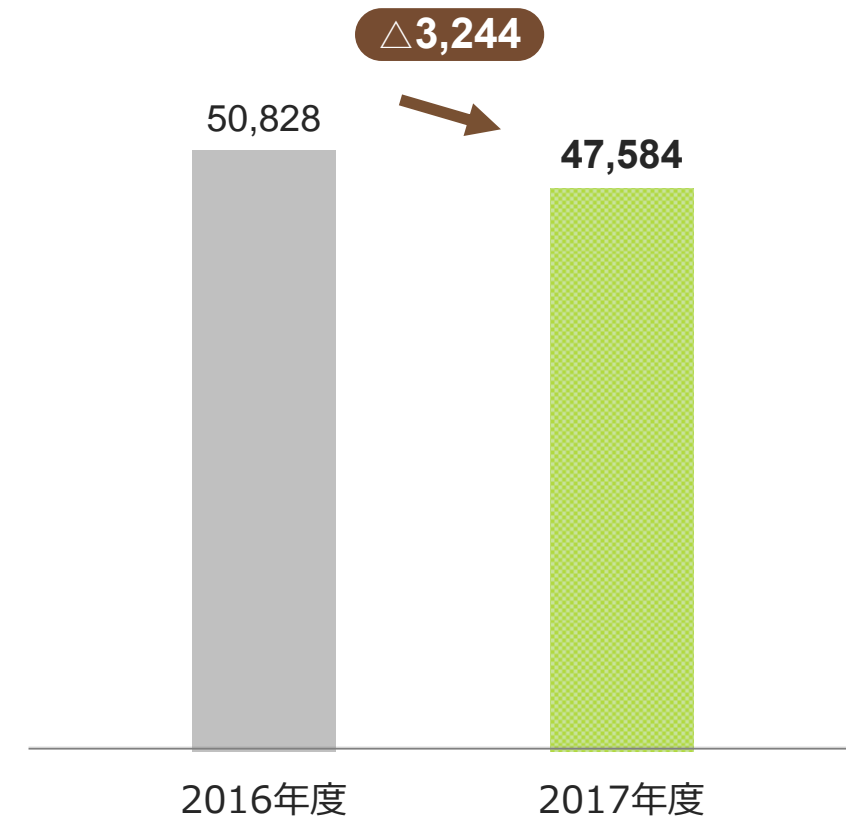
## 売上原価率



- ◆ バーゲン・処分売りシェア増
- ◆ 商品評価損・償却増

## 販管費

(単位：百万円)



- ◆ 印刷費・制作費・カタログ送料  
：カタログ部数削減による各費用減
- ◆ 減価償却費：減損損失等による減
- ◆ コスト見直しによる各費用削減

# ブライダル事業の概況 (対前年度比)

	2016年度	2017年度	増減	要因
売上高(百万円)	16,818	18,132	1,314	
● 新店	—	20	20	■ KOTOWA 京都 中村楼 新規オープン(9月)
● 既存店	16,818	18,112	1,294	
営業利益(百万円)	751	963	212	
ゲストハウス数(店舗)	23	24	1	
施行件数(組)	4,362	4,635	273	
平均組単価(万円)	364.8	368.7	3.9	

# 法人事業の概況 (対前年度比)

(単位：百万円)

	2016年度	2017年度	増減額	要因
売上高	4,576	4,833	257	
● 業務受託	3,354	3,518	164	■ 物流・コールセンター業務受託増及び物販受託(株主優待事務局等)増
● サンプルング	994	1,038	44	
● ノベルティ	195	259	64	■ 既存クライアント成約増及びスポット案件成約増
● その他	33	17	△16	
営業利益	517	375	△142	■ 業務受託・ノベルティにおける利益率悪化

- 要因 1** ・通販事業、特にベルメゾン事業における売上の対計画比マイナス  
→ 売上対策実施するも効果低い
- 要因 2** ・在庫管理方針の明確化による評価損等の増加  
→ 在庫判定の見直し等による増加
- 要因 3** ・希望退職者の増加による特別退職金等の事業構造改革費用の増加  
→ 50名予定 ⇒ 134名

**参考** ・減損損失（下表明細）

（単位：百万円）

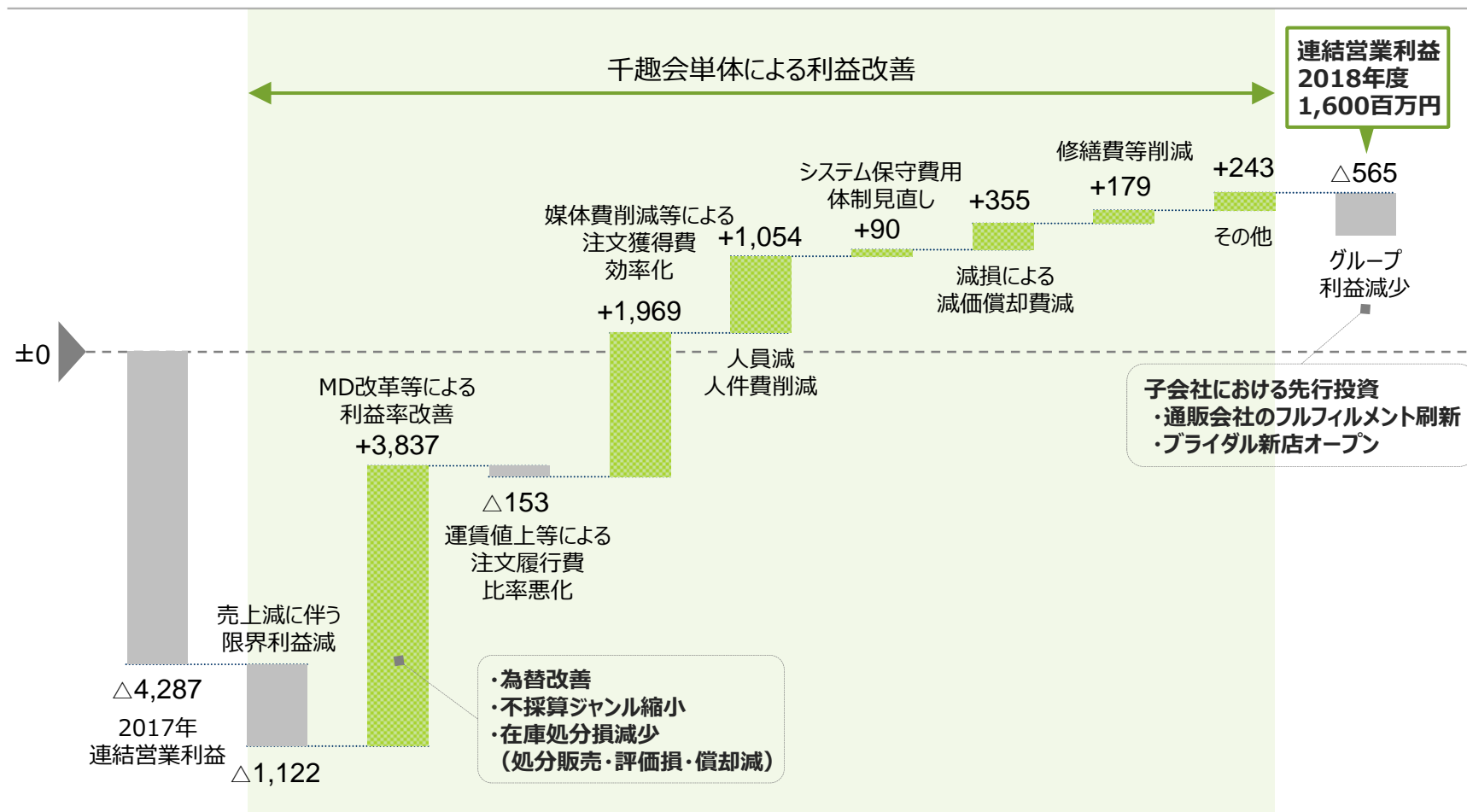
会社名	拠点	総計
千趣会	● 大阪本社ビル等事務所	1,400
	● 物流センター	1,681
	● ソフトウェア等無形固定資産	1,401
	● その他	270
子会社	各子会社	718
総計		5,473



### 3 2018年度連結業績予想について

# 2018年度通期連結業績予想（詳細）説明

（単位：百万円）



- ◆ ベルメゾン事業での在庫削減、販売費削減や、グループ全体としての人件費、管理費削減により、2018年度の連結営業利益16億円を達成します

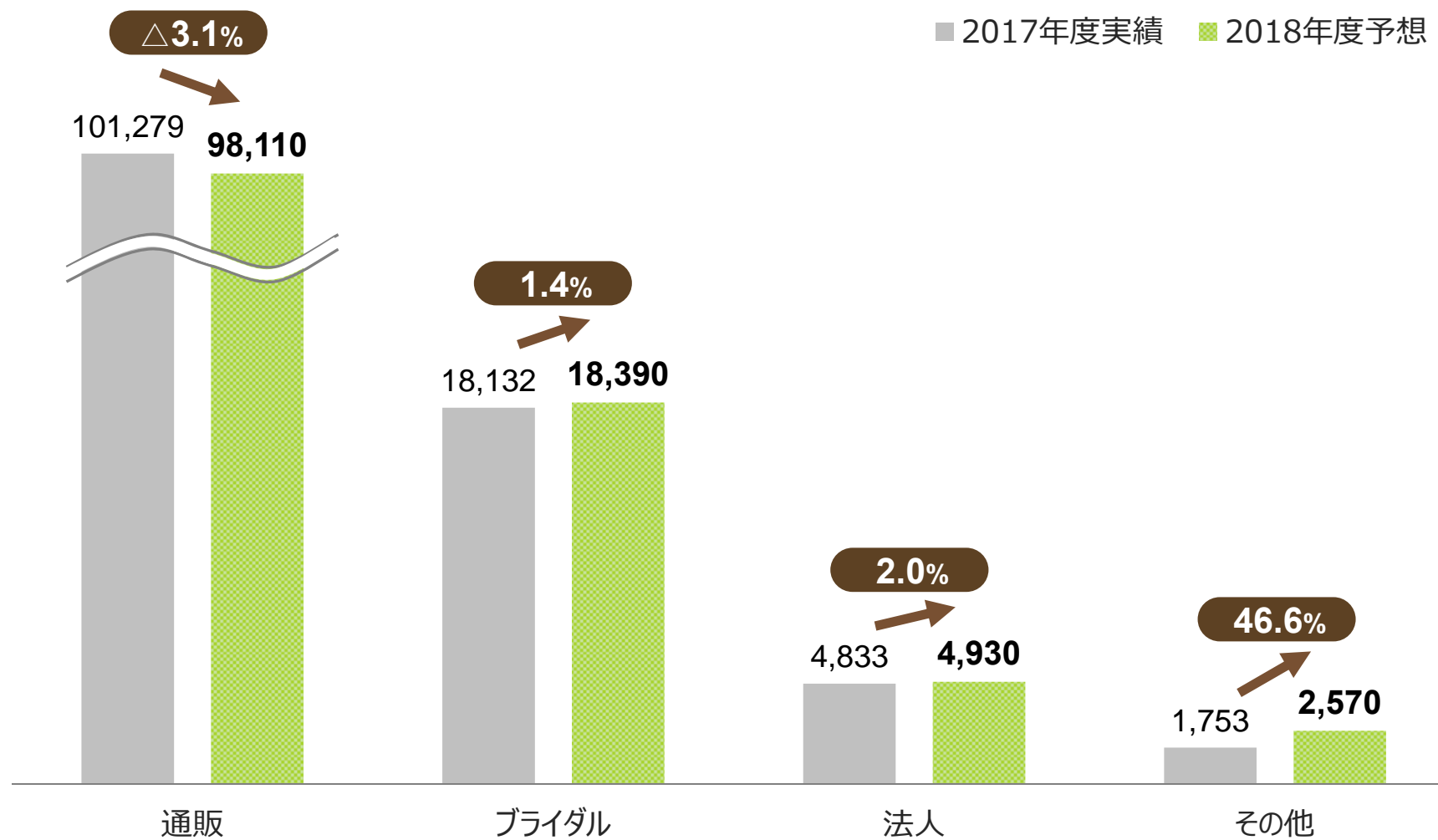
# 2018年度通期連結業績予想 (対前年度比)

(単位：百万円)

	2017年度実績		2018年度予想		対前年	
		売上比		売上比	増減額	売上比 差異
売上高	<b>125,999</b>		<b>124,000</b>		<b>△1,999</b>	
売上原価	<b>71,437</b>	<b>56.7%</b>	<b>67,091</b>	<b>54.1%</b>	<b>△4,346</b>	<b>△2.6%</b>
売上総利益	<b>54,561</b>	<b>43.3%</b>	<b>56,908</b>	<b>45.9%</b>	<b>2,347</b>	<b>2.6%</b>
販管費	<b>58,848</b>	<b>46.7%</b>	<b>55,308</b>	<b>44.6%</b>	<b>△3,540</b>	<b>△2.1%</b>
営業利益	<b>△4,287</b>	<b>△3.4%</b>	<b>1,600</b>	<b>1.3%</b>	<b>5,887</b>	<b>4.7%</b>
経常利益	<b>△4,206</b>	<b>△3.3%</b>	<b>1,900</b>	<b>1.5%</b>	<b>6,106</b>	<b>4.8%</b>
親会社株主に帰属する 当期純利益	<b>△11,090</b>	<b>△8.8%</b>	<b>1,400</b>	<b>1.1%</b>	<b>12,490</b>	<b>9.9%</b>

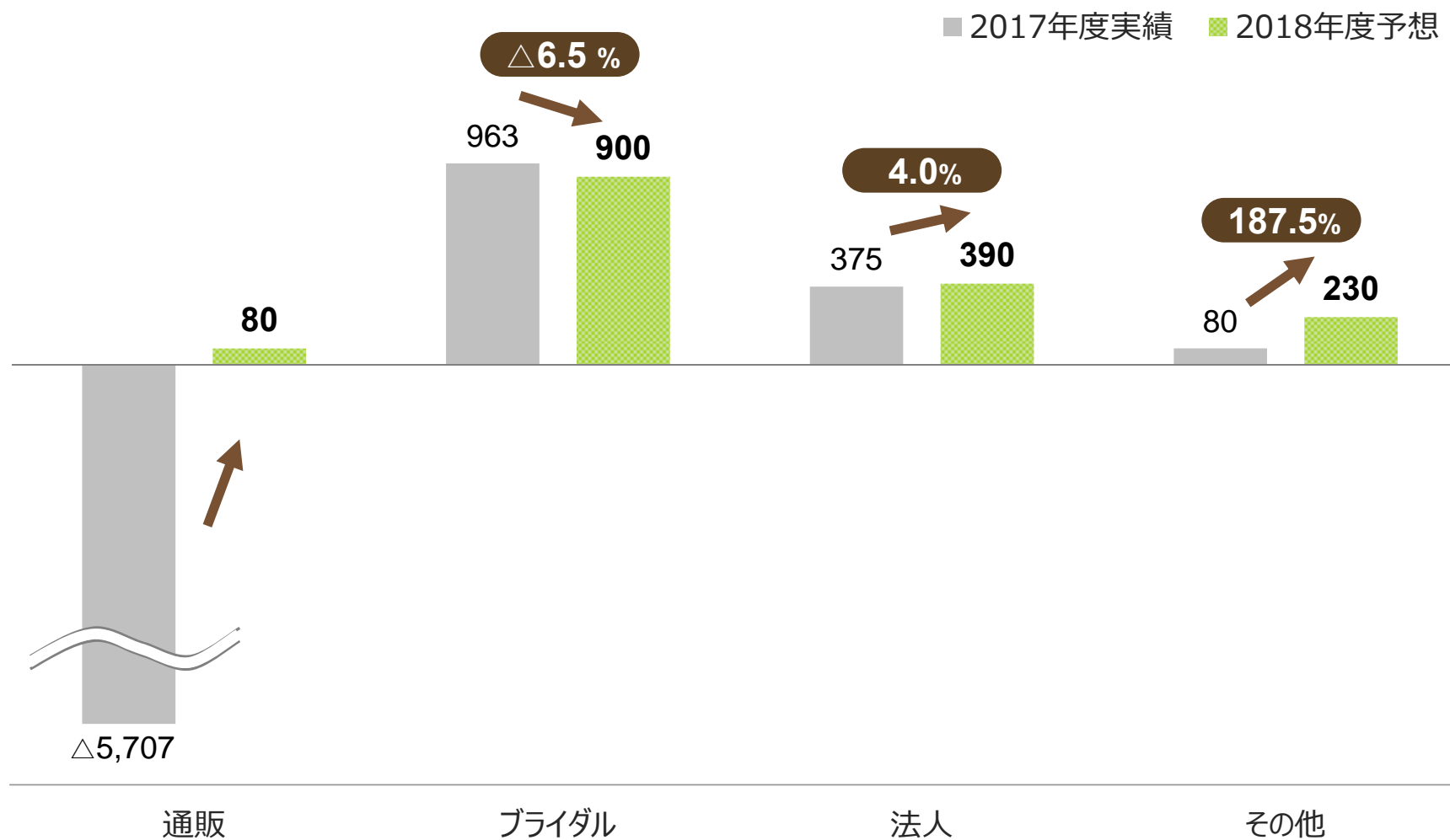
# 2018年度セグメント別売上高予想 (対前年度比)

(単位：百万円)



# 2018年度セグメント別利益予想 (対前年度比)

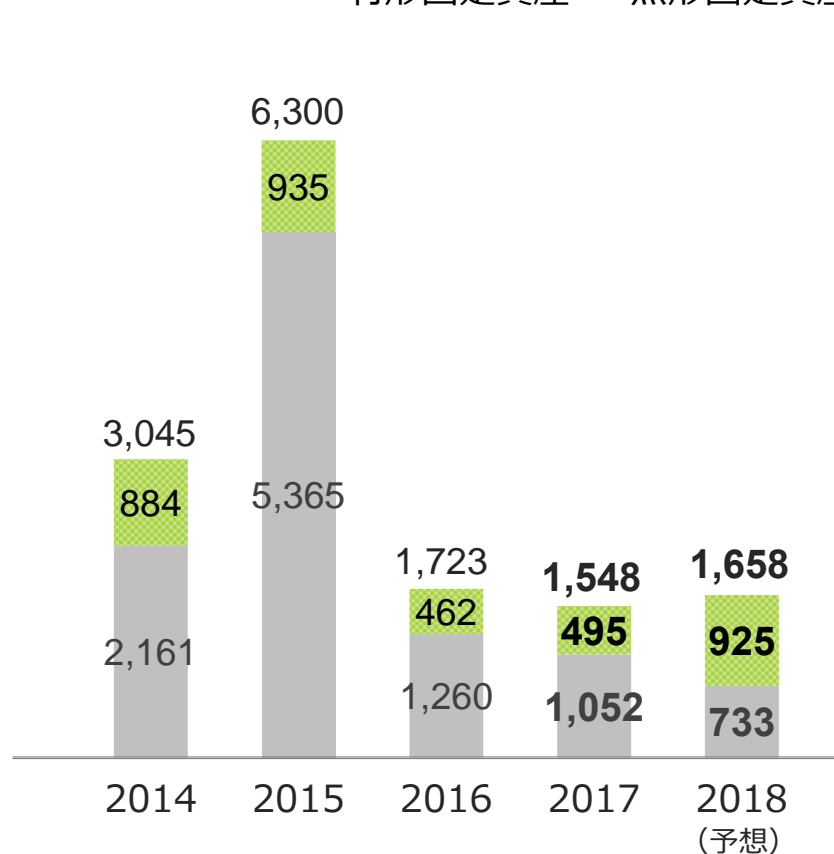
(単位：百万円)



設備投資額

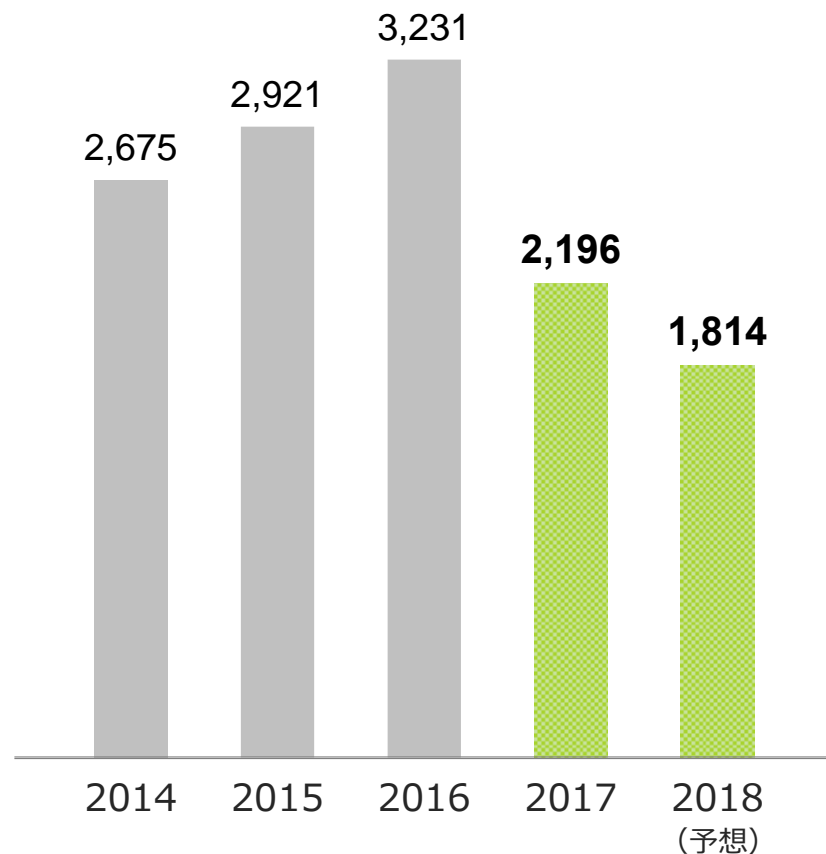
(単位：百万円)

■有形固定資産 ■無形固定資産



減価償却費

(単位：百万円)



- ◆ 有形固定資産：2017年はコールセンターネットワーク構築、2018年度は可見DC機械装置更新やえがおの森保育園どうしん関連
- ◆ 無形固定資産：2018年度はフィールライフ基幹システム構築

## 4 その他

## 大手家電販売店エディオンとの協業について ～エディオン蔦屋家電（広島）にてベルメゾン商品のテスト販売をスタート！



ライフスタイルカテゴリーの売上拡大と新規顧客の創造のため、家電量販店で6年連続リフォーム売上No.1のエディオンと協業することといたしました。

エディオンの中でも新しいライフスタイルの提案を行うエディオン蔦屋家電（広島）にて、「新生活関連商品」をテーマに2017年12月26日から2018年4月初めまでテスト販売を行います。



## クロスメディア販促について ～ホットコット・とろけるシリーズの動画による販促が好評！

メディア掲載数（紙及びネット関連ニュース等）の増加により、商品やベルメゾンの認知度が高まり、販売増につながりました。

特にとろけるシリーズの猫を使った動画は、再生回数が3.5万回を超えるなど好評を博しました。







## お客様からの寄付「えがおの森基金」が累計1億4千万円を突破

「お客様と一緒に。みんなを笑顔に」をスローガンに2013年度より開始した社会貢献活動のための「えがおの森基金」はお客様の支持を得て累計1億4千万円を突破。

(145,061,419円、2017年12月31日現在)東北支援、ピンクリボン活動、環境活動の3つのテーマでウーマン スマイル カンパニー千趣会として、各プロジェクトを展開しました。

## 東北支援－「おくるみプレゼント」を終了。4年間で約3万枚を東北の新しい命に

「東北のお母さんと子どもたちを笑顔に」する震災復興活動として、2013年より東北4県(青森・岩手・宮城・福島)の新しい命に「オリジナルおくるみ」をプレゼントしてきました。

産院や子育て支援団体を通じ、4年間で計33,591枚を配布しました。



## ピンクリボン活動－乳がん経験者支援活動を活発化

これまでの乳がん検診促進活動に加え、2015年からは乳がん経験者の支援活動を開始。昨年は経験者のお話を聞く機会を設け、使い勝手を高めた「ケア帽子」を企画・発売しました。



## 環境活動－グリーンパワー教室、親子で考える特別授業も大阪・東京で開催

未来を担う子供達に“グリーンパワー(再生可能エネルギー)”について考えてもらう機会を作り、社会全体でエネルギー問題や環境問題を変えていきたいという思いから、小学校での出前授業を実施しています。昨年は12月に岡山で実施。また、親子参加のイベント形式の新カリキュラムを春休み(3月)に大阪、夏休み(8月)に東京で開催しました。



## 配当予想

当社グループは、経営基盤の強化を図ると共に、株主各位に対しましては配当性向を考慮し安定的な配当の維持及び業績に応じた適正な利益還元を基本としております。

2017年12月期の配当につきましては、連結・単体共に純損失を計上する状況であることを勘案し、誠に遺憾ながら、無配とさせていただきます。

2018年度におきましては、今期からの中期経営計画の推進と、経営の安定性・安全性の観点より自己資本の拡充が最優先課題であり、また季節変動の要因が大きいため、中間配当は無配、期末配当は未定とさせていただきます。

## 決算発表日程

- |             |                  |
|-------------|------------------|
| ● 第1四半期決算発表 | <b>4月27日（金）</b>  |
| ● 第2四半期決算発表 | <b>7月26日（木）</b>  |
| ● 決算説明会（東京） | <b>7月27日（金）</b>  |
| ● 第3四半期決算発表 | <b>10月26日（金）</b> |

当決算発表会資料記載内容のうち、将来予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。